

特集 「職員ネットワーク」が自治体を変える!



被災地の子どもたちを元気づけようとした「東北OM主催チャットモニターチャリティライブ in 並石中学校」の様子(2012年4月30日)。

東北OMは、東北地方でまちづくりや地域活性化に資する人財育成を目指した広域的なネットワークである。現在、メンバーは東北6県を中心に680人ほどであり、その内訳は、自治体職員を中心に、民間企業の社員やNPO関係者、大学の教職員や学生など、大変多岐にわたっている。これらの点から、職種や年齢、性別など、さまざまな垣根を越えた官民連携によるネットワークともいえるだろう。

東北OMでは「敷居は低く、されど志は高く」というコンセプトを掲げている。これには、誰でも気軽に参加できるように、東北OMの活動には二つの柱がある。一つは勉強会を中心とした定期的なイベントの開催である。これまで東北6県すべてで勉強会を開催し、その数は実に20回以上に及んでいる。二つ目はITを活用した情報交換及び情報発信である。MLを用いた会員相互の情報交換はほぼ毎日行われており、ホームページ(HP)やFacebook、ニューズレターなどを用いた情報発信も積極的に進めている。

活動の二本柱と五つの場の提供

東北OMの活動には二つの柱がある。一つは勉強会を中心とした定期的なイベントの開催である。これまで東北6県すべてで勉強会を開催し、その数は実に20回以上に及んでいる。二つ目はITを活用した情報交換及び情報発信である。MLを用いた会員相互の情報交換はほぼ毎日行われており、ホームページ(HP)やFacebook、ニューズレターなどを用いた情報発信も積極的に進めている。

個性豊かな人財が集まるプラットフォームへ

このように様々な活動を展開している東北OMだが、何と云っても一番のウリは人財である。官民間問わず、東北OMには東北6県それぞれに魅力溢れる個性豊かな人財が豊富に揃っている。また、最近では東北以外にもその輪が広がっている状況だ。この680人のメンバー、人ひとり、東北OMにとっての宝であり、最大の魅力でもある。だからこそ、私は東北OMに参加する最大のメリットは東北OMメンバーと出会い、つながりを持つことだと自信を持っている。

特集 「職員ネットワーク」が自治体を変える!



東北まちづくりオフィス
ミーティング運営委員
後藤好邦
(山形市職員)

ことろ・よしくに 1972年山形市生まれ、94年山形市役所入庁。納税課、高齢福祉課、体育振興課を季節体室、企画調整課、都市政策課を経て今年4月から行政経営課にて行政経営係長を務める。09年6月6日に、北上市職員の佐々木龍久氏、高橋直子氏らと共に「東北まちづくりオフィスミーティング」を発足。現在は当ネットワークの運営委員を務める。

わがネットワークの一押し! 2

「敷居は低く、されど志は高く」をコンセプトに、まちづくりに資する人財育成を目指す

東北OMの存在意義

2011年3月11日午後2時46分、東北日本大震災発生。マグニチュード9.0の大地震が東北日本全域に甚大な被害を与え、太平洋沿岸を襲った大津波が多くの尊い命を奪っていった。さらに、福島第一、原子力発電所の事故に端を発する放射能汚染が未だ多くの人の心と苦しめていた。私たちの心は悲しみに浸り、深い悲しみと大きな苦しみを与えた。この大震災は、東北まちづくりオフィスサイトミーティング(東北OM)のメンバーにも大きな試練を与えた。特に、被災地に住むメンバーにとっ

ては想像を絶する辛い経験となったに違いない。そのようなメンバーの一人、釜石市役所の宮本光さんが震災から3週間余り経った4月4日に、一通のメールを東北OMのメンバーに送った。内容は「ML」に投稿した。私はそのメールを、生かすことはできないだろう。「皆さんのメールはここ数日分しか受信できませんが、色んな思い、情報、活動が心の支えになります。ありがとうございます!!」東北OMの仲間、そして活動が、彼らの辛さを多少なりとも和らげている。この時ほど、東北OMの存在意義を感じた瞬間はなかった。

自治体の枠を超え共に学び活動するネットワークを

大震災から過ること2年余り、9月6日に東北OMは産声を上げた。そのきっかけは、同年2月に開催された北上市の業務改善発表会「きたかみピンポンパン祭」の打ち上げで交わされた何気ない会話だった。当時、私は山形市で改善活動に携わっていたが、この活動の「環」として、北上市との交流が行われていた。この定期的な交流が、両市の職員のモチベーション向上につながっていたことから、私は様々な枠組みを超えて交流すること、つながることの有益性を強く感じていたのである。

この思いを打ち上げに同席していた北上市の佐々木龍久さんと高橋直子さんに打ち明けてみたところ、彼らもまた同じ思いを感じていた。そこで、この思いを形にするため、「自治体の枠を超えて共に学び活動するネットワークを創ろう」という結論に至った。その後、栗原市の鈴木敬さんなど心強い仲間が加わり、4か月後、東北OMがスタートを切るようになったのである。

*東北まちづくりオフィスミーティング(人会・問合先) E-mail: tohoku.om@gmail.com, http://to-m.cafe.cocacn.jp/ (HP 人会・問い合わせフォームあり)